

# 5種混合予防接種に関する説明書

(ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオ・ヒブ)

## 1. 5種混合ワクチンとは

お母さんから赤ちゃんへプレゼントした病気に対する抵抗力（免疫）は、百日咳や水痘（水ぼうそう）では生後3カ月までに、麻しん（はしか）やおたふくかぜでは生後8カ月までに自然に失われていきます。この時期を過ぎると赤ちゃん自身で免疫をつくって病気を予防する必要がでてきます。これに役立つのが予防接種です。

5種混合ワクチンは、ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオ・ヒブを混合したワクチンです。

生後2カ月以上7歳6カ月未満の間に1期初回接種を3回、1期追加接種を1回の計4回接種をすることが必要です。

- ◆1期初回接種：生後2カ月以上7カ月未満の間に20日以上、標準的には20日以上56日までの間隔をおいて3回接種をします。
- ◆1期追加接種：1期初回接種の3回目から6カ月以上、標準的には6カ月以上1年6カ月未満の間に1回接種をします。

## 2. 病気の説明

### ◆ジフテリア

ジフテリア菌の飛沫感染によって起こる病気です。のどや鼻に感染し、症状は高熱、のどの痛み、犬の遠吠えのような咳、吐き気などで、のどに膜のようなものをつくり窒息死することもあります。発病後2～3週間で菌の毒素により心筋障害や神経マヒをおこします。

### ◆百日せき

百日せき菌の飛沫感染で起こる病気です。百日せきは普通のかぜのような症状で始まり、咳がひどく、顔をまっ赤にして続けざまに咳き込みます。咳のあと笛を吹くような呼吸をします。熱はでません。乳幼児は咳で呼吸ができず、酸素不足やけいれんをおこすことがあります。肺炎や脳症などの重い合併症を伴い、乳児では命にかかわります。

### ◆破傷風

破傷風菌は土の中にひそんでいて、小さな傷口から感染し体の中で増え、毒素が出始めると口が開かなくなったり、けいれんをおこしたり、死亡することもあります。

### ◆ポリオ（急性灰白髄炎）

ポリオは「小児マヒ」と呼ばれ、わが国でも1960（昭和35）年に、ポリオ患者の数が5千人を超え、かつてない大流行となりましたが、予防接種の効果で現在は国内での自然感染は報告されていません。しかし、現在でもパキスタンやアフガニスタンなどの南西アジアやナイジェリアなどのアフリカ諸国ではポリオの流行があることから、日本に入ってくる可能性があります。感染してもほとんどの場合は症状が出ませんが、発症するとかぜ様の症状があった後、一部の人に麻痺が残ります。

### ◆ヒブ（Hib）

インフルエンザ菌、特にb型は、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎などの表在性感染症の他、髄膜炎、敗血症、肺炎などの重篤な深部（全身）感染症（侵襲性感染症ともいいます。）を起こす、乳幼児にとって問題となる病原細菌です。Hibによる髄膜炎は平成22（2010）年以前は、5歳未満人口10万対7.1～8.3とされ、年間約400人が発症し、約11%が予後不良と推定されていました※。また、生後4カ月

～1歳までの乳児が過半数を占めていました。(※厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会の資料による。)現在は、Hib ワクチンが普及し、侵襲性 Hib 感染症はほとんどみられなくなりました。

### 3. 5種混合ワクチンの副反応について

国内臨床試験において、接種部位の発赤・腫れ・しこりなどの局所反応と、接種部位以外の反応として発熱がありました。

この他に重篤な副反応として、ショック、アナフィラキシー様症状、血小板減少性紫斑病、脳症、けいれん（熱性けいれんを含む）があらわれることがあります。

### 4. 健康被害救済制度

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。

ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因によるものかの因果関係を専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に給付を受けることができます。

### 5. 予防接種を受ける前の注意事項

**予防接種は体調の良いときに受けるのが原則**です。日頃の体質、体調など健康状態を知っておくようにしましょう。

- ①受ける予定の予防接種の効果や副反応、健康被害救済制度について説明書をお読みいただき、理解した上で接種をお受けください。**わからないことがある場合は接種を受ける前に質問しましょう。**
- ②他のワクチンを接種した場合、その後の接種間隔を各予防接種説明書で確認してください。
- ③当日はお子さんの健康状態をよく観察し普段とかわりないことを確認しておいてください。体調が悪く思ったら、かかりつけ医に相談の上、接種するかどうか判断するようにしましょう。
- ④予診票は接種をする医師への大切な情報ですので、責任を持って記入してください。
- ⑤母子健康手帳を必ずお持ちください。

### 6. 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ①接種後 30 分は急な副反応がみられることもありますので、接種会場でお子さんの様子を観察してください。
- ②微熱、接種局所の発赤・腫れ・しこり、発疹など認められることがありますが、通常の免疫反応であり、数日以内に自然に治るので心配の必要はありません。  
接種局所のひどいはれ・高熱・ひきつけなどの強い副反応の症状がありましたら、医師の診察を受けてください。また、診察の結果につきましては下記の市町村担当課までご連絡ください。
- ③入浴は差し支えありませんが、注射した部分をこすらないようにしてください。
- ④接種当日は、はげしい運動は避けてください。

令和7年度版  
茂原市長生郡医師会  
長柄町福祉課